

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

国際ロータリー第2580地区

ガバナー月信

JUNE 2020 VOL.12 (最終号)



国際ロータリー第2580地区 ガバナー事務所

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-11-8 全医協連会館1階

TEL 03-3538-0211 FAX 03-3538-0212

E-mail office@rid2580.org



「超我の奉仕」こそ原点

より絆を深めよう！

クラブ会長、幹事をはじめすべての会員の皆さんお変わりありませんか？ 時節柄心よりお見舞い申し上げます。

さて、ガバナー月信も、いよいよこの号をもって最終号となりました。最後までお付き合いいただきありがとうございます。有終の美を飾って次年度に引き継ごうと思ってもこの場に及んでは、消化不良による物足りなさ、漸く終わったとの安堵感が交錯し、複雑な思いで締めることになりました。ガバナー月信を担当いただいた地区副幹事の遠山明良氏に感謝申し上げます。

振り返ってみますと昨年 1 月にサンディエゴで行われた国際協議会に他地区ガバナー 33 名と参加し、マローニー会長の「ローターは世界をつなぐ」というテーマに感銘を受け帰国し、希望に燃えて 7 月 1 日から活動をスタートしました。クラブ会長、地区役員すべての会員の協力の下、公式訪問、IM、地区大会を滞りなく順調に進め、残るはホノルル国際大会で一気に花を咲かそうとの目論見は一瞬にして泡と消えてしまいました。このような悲惨な状態を誰が想像したでしょうか。早くからハレクラコを手配し、ガバナーナイトの準備を入念に進めてくださっていた地区国際大会参加推進委員長の木村平右衛門氏には申し訳ない気持ちでございます。

当地区から約 150 名の方が申し込みをしていた、3 月の日台ローター親善会議が延期になったことも残念に感じております。国境や都道府県をまたぐ移動がいつから行なえるようになるのか現時点では分かりませんが、博多にて台湾の皆様のお顔を見ることが出来る日が来ることを願っております。新型コロナウイルス禍は人から仕事を奪い、感染の恐怖に陥れ今尚、世界中を震撼させています。地区大会が 2 日遅れていれば…と思うとぞっとします。

新本 博司

国際ローター第 2580 地区

ガバナー

那覇 RC

不易流行でローターの本領発揮を！

本来ならもうすぐ待望のオリンピック、そして日本のローター創立 100 周年とめでたい事が重なる筈でしたがオリンピックは延期、周年行事も正直言って素直には喜べない環境にあります。しかし、現状を傍観し、コロナの終息を待つしかないでしょうか。ローターは創立以来、戦争や疫病等幾多の苦難を乗り越えてきました。それは世界中のロータリアンが手を繋ぎ結束し、超我の奉仕を実践してきたからに他なりません。今まさに地球に住む我々は人類の危機に直面しています。今こそ不易流行、現状を直視し、ローターの理念をしっかりと踏まえた奉仕の理念を推奨し実践する以外にありません。

一年を通じて各委員会、クラブでは精力的に活動し実績を上げてきたことは嬉しいことです。地区社会奉仕委員会は地域や社会のニーズを掘り起こし、子どもの

貧困などに取り込み、新型コロナウイルスに関しては他地区と連携して医療現場の窮状化に対し、東京都や沖縄県の医師会にフェイスシールドを寄贈しました。

沖縄の地区大会では行政（那覇市）と共催でガールスカウトや NPO 法人、一般市民などの参加の下、地区では初めてローターデーを開催し、各マスコミが取り上げ公共イメージ向上につながりました。

「奉仕の実践／平和で明るい未来」

ここで特記したいことは沖縄の平和のシンボル首里城の焼失に際し、全国のガバナーから激励の言葉とともに、支援申し込みをいただき地区内外より 3,000 万円以上の支援金が集まり、地区大会で城間幹子那覇市長に贈呈いたしました。新聞報道でローターの活動を知った方々から公共イメージが向上したと一定の評価をいただきました。また、温かいご支援をいただいた全国のロータリアンに心よりお礼申し上げます。

沖縄で開催する地区大会もテーマは「奉仕の実践／平和で明るい未来」と掲げました。マローニー会長の唱える国連とローターの連携は沖縄で「平和フォーム」を開催することで時宜を得た催しだったと自負しています。マローニー会長からもメッセージをいただき、大類隼人さんの基調講演につづき、三木明 RI 理事の司会による三名のパネラーのフォーラムは立見席がでる程盛況でした。RI 会長代理千玄室氏にはロータリアンとしての心構えについて含蓄あるお話で大会を盛り上げていただきました。

いよいよガバナー任期も残すところ 1 ヶ月となりました。ガバナーに指名を受けてから三年余が経ち、最初は沖縄～東京の距離、身体的な不安に加えてリーダーシップの遂行への一抹の不安もありました。しかし、3 4 地区ガバナーの心底からの励まし合い、大所高所からアドバイスをいただいた諮問委員でパストガバナーの方々、ガバナー補佐、地区役員そしてクラブ会長、幹事のご協力の賜物です。そして何よりも終始冷静な判断で支えてくれた新垣地区幹事をはじめ副幹事の皆さん、ガバナー事務所や各クラブの事務担当の皆さんに心より御礼申し上げます。

私たちは一期一会の縁で結ばれ日々活動しています。これからも手を取り合って平和で明るい未来を築いていきましょう！

すべての皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

フェイスシールド 34,000 個 寄贈のご報告

皆様からお寄せいただいた支援金とローター財団の地区補助金で、フェイスシールドを寄贈する活動を進めております。すでに約 34,000 個の寄贈が完了いたしましたので中間報告申し上げます。

5 月 12 日に私とガバナー補佐の宮城富夫氏が沖縄県医師会を訪問いたしました（この時点では 23 万円分の約 2,000 個を寄贈）。



5 月 14 日には、地区社会奉仕委員長の松下和正氏と地区国際奉仕委員長で医師の大森順方氏が東京都医師会を訪問しました（この時点では 90 万円分の約 8,000 個を寄贈）。



その後、6 月 1 日に東京都に 290 万円分の 24,000 個を寄贈いたしました。まだクラブからの支援金の取りまとめが終わっておりませんので、最終的な金額と数字が確定しておりませんが、少なくともさらに 120 万円分の 1 万個は寄贈いたします。東京と沖縄の配分は、寄贈数の確定後に決定いたします。

また、ローター財団のローター災害救済補助金（25,000 ドル）も申請しております（4 月 18 日に申請いたしましたが審査結果が通達されておりません。世界には 525 の地区があります。世界中の地区が申請をしているようなので、基金の残額状況によっては補助金を受け取ることができません。）



「一年を振り返って」

本年度をもって地区クラブ奉仕委員会という委員会名は変更となり、次年度からは地区クラブ運営支援委員会と名称が変わります（活動内容に変更はありません）。委員会では可視化できるものを創造しました。メンバーは 15 クラブより 23 名、先ず親睦を深め「ローター活動は楽しく」「親睦力」の意識を共有して地区 70 クラブのサポートをさせていただくことを念頭に運営を心掛けました。初めに卓話者リストの作成をして新年度のスタート 7 月 1 日に全クラブへ届けることが出来ました。重要事項として「ブランディング」を取り上げ、クラブが持つ独自性や個性を議論し、発見していただくために、「らしさ」に関するアンケートを実施し、各クラブの「らしさ」を一言で表すキャッチコピーを議論していただきました。その結果、ほぼ 100%のクラブから、創意工夫を凝らしたキャッチコピーのご提出をいただきました。それを受けて、2020 年 2 月 4 日（在京 59 クラブ・写真上）及び 12 日（沖縄 11 クラブ・写真下）に、クラブ奉仕委員長報告会を実施し、各クラブ奉仕委員長から自クラブのキャッチコピーの発表とその説明をしていただきました。自クラブの「らしさ」を再認識し「ブランド」を確立するための契機として、また他クラブの方と交流する際のコミュニケーションツールとして、これを積極的にご活用していただくことを期待しております。これからのクラブ運営や公共イメージ向上に繋がるものと考えております。一年間ありがとうございました。

（吉田建二 PG をはじめとする委員会メンバーの皆様にはご協力賜り心より感謝致します。）

新型コロナウイルス感染の一日も早い収束と皆さまと笑顔でお会い出来ます日を楽しみにしております。

ごじょう
半場
しんいち
慎一

地区クラブ奉仕委員長

東京新都心 RC





「職業奉仕部門に携わって」

特別な 1 年間でございましたが、多田宏カウンセラーの厚い御指導と素晴らしい委員の方々よりの強力な援軍を受け、充実した内容となりました。

まずはロータリー活動における職業奉仕の意味、意義を学んだ上で、年度テーマを「事業継承」と決定し、各クラブにアンケート調査を実施し、その結果を分析検討しました。

そして上山昭治パストガバナーに公認会計士の立場から、奥村昭博・慶応大学名誉教授に学者の立場から、渡辺雅司・船橋屋社長より実業家の立場から御講演を頂きました。各セミナーともに、多数の会員出席を承り、活発な議論が交わされました。

そして、これらの活動の中盤までに修め、委員全員でまとめようという段階で、新型コロナウイルス感染拡大が発生し、想像すらしなかった非日常が続いております。このような有事の時こそ、職業奉仕、事業継承の重要性が問われているものと痛感しております。

どうもありがとうございました。

伊藤 公一

地区職業奉仕委員長

東京 RC

地区職業奉仕セミナー開催実績

2019 年 8 月 21 日 (水) 17:00~20:00 @ストリングス表参

2019 年 10 月 2 日 (水) 16:30~19:30 @アイビーホール

2020 年 1 月 24 日 (金) 16:30~19:30 @アイビーホール





松下 和正

地区社会奉仕委員長

東京本郷 RC

「一年を振り返って」

今年度の本委員会の柱は、「各クラブの社会奉仕活動の支援と広報」でした。

地域のニーズを一番タイムリーに把握しているのは社会福祉協議会であると考え、地域全クラブの最寄り社会福祉協議会を訪問し、そのニーズとローターへの要望をヒアリングし資料としてまとめました。各クラブで活用していただければ幸いです。

社会福祉協議会は、地区により多少違いはあるものの、中高年の居場所づくり（孤独な高齢者、引きこもり）、認知症対策、子供食堂などの貧困対策、不登校対応など、多様な地域のニーズに対応すべく、民間諸団体、NPO、企業等と連携し、社会福祉活動を推進しています。

社会福祉協議会は公的支援が及ばないところへの対応が期待されるだけに、ロータークラブとの連動がもっとあって然るべきだとお互いにあらためて感じました。それほど多額でなくても、また多少の労力が地域にとっては意義あることが多いのです。

今回の新型コロナの影響による困窮者への生活資金特例貸付で、どこよりも素早く（1週間で支給）支援活動をしたのは社会福祉協議会です。普段の対応先もコロナでものすごい状態になっており、社会福祉協議会は大変な状況です。我々ロータリアンももっと一緒にできることがあったのではと反省しております。

広報については、社会福祉協議会訪問時に PR した他、公共イメージ向上委員会と連動し、特に沖縄での地区大会のローターデーはマスコミにも大きく取り上げられ、会員増強にも資したのではと考えます。

来期も茂木正光委員長のもと、地区社会奉仕委員会は、各クラブが地域で有意義で感謝される社会奉仕活動のできるよう活動してまいります！





大森 順方

地区国際奉仕委員長

東京北 RC

「2019-20 年度 地区国際奉仕委員会活動報告」

国際奉仕はローターにおける数多くの奉仕活動の中で最も美しい花だと言われています。しかし、その評価とは裏腹に、一部の限られたロータリアンの活動分野であって一般のロータリアンにとっては縁遠い存在であると考えている会員も多いようです。そこで今年度は、国際奉仕活動は身近な活動であることを理解して頂き、「1 クラブ 1 国際奉仕活動」に取り組んで頂くことを目標としました。

まず、各クラブにおいての目標設定の目安とするようアンケート形式で、国際大会及び国際会議（日台親善会議、日韓親善会議等）への参加、海外姉妹クラブとの交流及び新たな姉妹クラブの提携の有無、ローター財団の基金を活用した海外のクラブとのプロジェクトについて伺いました。

2019 年 9 月 28 日に仙台で開催されましたローター日韓親善会議には 22 名の参加がありました。バギオ基金支援に関しましては、例会においてバギオ基金の卓話をし、支援金の寄付に繋げることができました。また、地区大会におきましては、平和フォーラムを開催し、元ローター財団グローバル補助金奨学生の大類隼人さんに、ご自身の国際支援活動を通しての国際奉仕活動の意義とその大切さについての講演を賜りました。

残念ながら、日台ローター親善会議は延期、そして、ホノルルでの国際大会は中止となりましたが、多くの会員の皆様に参加の申し込みを頂き、ここに感謝申し上げます。

今年度後半は、予期せぬ COVID-19 の影響で海外への渡航ができなくなるばかりではなく、国内の移動及び会議の自粛が伴って、活動が停滞してしまいました。今後は web ミーティングなどを利用して、海外のクラブとの接点を持ちながら、新しい形の国際奉仕活動ができるようにしていきたいと考えています。

(ご参考)



6 月 20 日（土）第 1 回本会議：ローターと共に“ちから”をつなごう

6 月 21 日（日）第 2 回本会議：ローターと共に学びを深めよう

日本時間 22:00~23:15 [詳細はこちら](#)。



平井 憲太郎

地区青少年奉仕委員長

東京池袋西 RC



「2019-20 年度 地区青少年奉仕委員会報告」

当地区では高校生対象のインターアクト、18～30 歳の青少年対象のローターアクト、高校生が 1 年間のトレーニングを経てから 1 年間の海外生活を体験する青少年交換、20 歳以上の青少年に 2 泊 3 日の合宿セミナーを提供する RYLA（ローター青少年指導者育成プログラム）、そしてロータリアン企業と中高生の職業体験を仲介する職場・就業体験、これら 5 委員会を包括して、数多くの若者に成長の機会を与え続けています。

インターアクトは昨年 8 月に、久しぶりに泊まりがけの年次大会を実施し、その後も地区内の 10 クラブがそれぞれ活躍を続けると同時に、クラブ間の交流を図る行事もいくつか開いてきました。

ローターアクトは、総数約 170 名のメンバーを擁する地区内の 15 クラブが地域での奉仕を続け、地区代表を中心として多くの地区を跨いだ活動を行っています。

RYLA は 1 月に沖縄県金武町で東京から 21 名、沖縄から 8 名の参加者を得てセミナーを開催しました。

職場・就業体験委員会では、これまで協働してきた東京都が事業を打ち切るアクシデントがありましたが、ロータリアン企業と地域の教育機関の間でこれまで築いてきた良好な関係を生かして、多くの生徒達に職業を経験する機会を作ることができました。

委員会としては、9 月に青少年奉仕全体会議を開催して、クラブ同士の情報交換を行い、地区全体としての青少年奉仕活動の向上を図りました。

3 月以降は、コロナウイルス対策に伴ってほぼすべての活動が休止状態になりましたが、地区大会で青少年奉仕の活動報告の時間を得て、地区内クラブの支援を得て参加した青少年交換学生、ローテックス（青少年交換 OB/OG）、ローターアクター、米山記念奨学生などが登壇して活躍をアピールすることができたことを嬉しく思っています。

しかしながら、青少年達とロータリアンがふれあうチャンスだった 4 月の青少年奉仕包括成果発表会、ローターアクターが長い間準備してきた関東ブロック研修会とローターアクト全国研修会が中止となってしまいました。

青少年交換は、今年度来日学生の大半、55 期の派遣学生は全員が早期帰国をし、帰国前報告会は中止されました。また、次年度の交換と、次々年度の派遣学生の選考試験も中止としました。なお今年の派遣が中止となった 56 期交換学生は、希望者のみ 2021 年夏に派遣を行う予定です。

このウイルスへの対応は、まだこれからもしばらく続くと思われ、青少年奉仕活動のあり方も大きく変えていく必要が出てきています。しかし、若い人たちは新しい事への対応力が優れていて、すでに多くのローターアクトクラブではオンライン例会を開いていますし、青少年交換でも帰国する学生の見送りをオンラインで行うなど、工夫を凝らしてこの時代を乗り切っています。私たちロータリアンもぜひ、この若者達のパワーと適応力を生かして、これからも積極的に奉仕活動を続けていきたいと思えます。



「地区ローター財団委員会報告」

私は昨年7月から水野正人 PG の後任として、地区ローター財団委員長に就きました。任期は3年間です。ロータークラブに所属して30年となりますが、着任当時はローター財団について、十分な知識を持っておりませんでした。

前任の水野さんが集金ボックスから浄財ボックスと仰っていましたが、寄付を集めるのが主な役割とっていました。しかし良く調べてみると、ローター財団の使命とは『ロータリアンが、(人々の)健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。(手続要覧 125 頁)。』とあります。

当地区のローター財団部門には、補助金委員会、財団資金管理委員会、資金推進委員会、ポリオプラス委員会、ローターフェロシップ委員会と五つの小委員会があります。もちろん寄付集めも重要な役目ですが、その寄付を如何に有効に活用し、ローター財団の使命を果たすかが、地区ローター財団委員会の重要なミッションだと分かりました。私は、その観点から、地区財団活動資金(DDF)をローター活動に有効に活用することも、重要な役目のひとつだと思います。

DDF で変化をもたらす為の5つの方法があります。

- 1.地区補助金
- 2.グローバル補助金
- 3.ポリオプラスへの寄贈
- 4.ローター平和センターへの寄贈
- 5.恒久基金への寄贈

当委員会としては、何はともかく、各ロータークラブが1.及び2.に積極的に取り組んでいただき、財団への寄付がローター活動に活かされていることを、肌で感じていただきたいと思います。ぜひ、まずは地区補助金、グローバル補助金を使って意義あるローター活動を行なってください。

そして、さまざまな活動の有効な原資となる財団への寄付を積極的にしていただきたいと思います。今年度は、皆様に寄付の意味を理解していただいた上で、大いに寄付をしていただこうと考えて活動をして来ました。

2020 年は、2 月からのコロナウイルス禍で世の中が騒然となり、ローターの諸活動はほとんど例年通りにはできず、大変なこととなっています。このコロナ騒動は、1 年で終息しそうにありませんが、これに対しても地区補助金の活用が可能ですので、今後時間をかけて検討してみてください。

今年度は、ローター財団委員会に色々ご協力いただき誠に有り難うございました。次年度も引き続き厳しい状況が続くと思われませんが、Web 会議等様々工夫して会務を進めて参りたいと思います。

野生司ガバナー年度も各ロータークラブの皆様のご支援ご協力をよろしくお願い致します。

吉田 雅俊

地区ローター財団
委員長

東京新都心 RC



「米山奨学事業の 1 年間を振り返って」

米山奨学事業は新本ガバナー年度が正式にスタートする 2019 年 7 月 1 日に先立つこと 9 ヶ月前の 2018 年 10 月には地区委員会としての活動が始まりました。

それは 12 月に奨学生選考試験を行うための準備を始めるためでした。それを考えると「1 年間を振り返る」のでは無く、もう少し長い期間を振り返る必要が有るのが正直な処です。

どちらにしてもこの年度の基本は

「カウンセラーだけでは無くお世話クラブメンバー全員で奨学生とコミュニティを取る。」その結果米山奨学事業を多くのロータリアンに知ってもらい、多くの奨学生のお世話をする意義を認識してもらい、“寄付を取られる”から“寄付を進んで出す”になって貰えればとの考えでした。

その為には「奨学生にはお世話クラブメンバー全員の名前と顔を覚える」事を期間始業式の際、約束して貰いました。そして、出席例会にはお客では無く自らもクラブメンバーの一員となって“参加”する気持ちを持つ様指導を繰り返しました。結果は確認していませんが、全員達成してくれたと確信しております。

年度を通して準備も大変でしたが三島の米山梅吉記念館訪問バスツアーが一番目的に沿ったイベントと思います。例年行っておりますバスツアーですが、今年は地区内で入会年度の比較的浅いロータリアンの参加を積極的に呼びかけました。

その結果、カウンセラーでもクラブ米山委員の方でも無い多くのロータリアンに参加頂けました。そして、バスでの移動中は、奨学生の隣にはロータリアンが必ず座り、カウンセラーは勿論それ以外のロータリアンの方も奨学生とのコミュニケーションを取ることで、学生の優秀さ、真面目さ、彼らの学生生活、出身国の情報等々様々な事を理解して貰えたと思っております。

さらに腰までのゴム長を履き、汗をかきながらクタクタになって湧水中での雑草取り作業を一緒にしたことで一体感のようなものも生まれたようでした。因みに新本ガバナーも汗をかきながら作業したロータリアンの一員でした。

今回の非常事態から日本の学生と同様、又はそれ以上に苦しんでいるのが海外からの留学生だと思います。一刻も早く事態が収束し、彼らが就職先、進学先、在学学校で元気に頑張っている姿を見られることを願っております。

小森谷 典明

地区米山奨学委員長

東京浅草 RC





中島 弘人

地区公共イメージ向上
委員長

東京ワセダ RC

1 年を振り返って

「先ず何から取りかかるべきか」から悩んだ一年でした。何故ならこの地区で初めてできた地区委員会だったからです。丁度一年半前、この委員長にご指名を頂き先ずローターの公共イメージとは何をやるものなのか諸々の資料で調べ、隣の地区で公共イメージの同期委員長となる二神典子様のを訪ね、教えを請うたりもしました。

その中で、今この第 2 5 8 0 地区がどのような社会貢献をしているかを少しでも一般の方々に知って頂くのはとても重要で、何か大きなイベントを打つというのは地区委員会としては違うのだろうと考えました。

地区内の各クラブの社会奉仕活動を一般に発信するには先ず地区委員会が各クラブの活動状況を知らなければなりません。その為に PETS において各クラブ会長に自クラブに公共イメージ担当者設置のお願いをしました。地区委員会と各クラブの公共イメージ担当が繋がることにより奉仕の情報を集めそれを SNS 等で広く一般に発信しようと考えたからです。約 5 0 のクラブから各々の奉仕活動の情報が集まりデータベース化できたことは収穫でしたが、結果的に SNS での発信は強力ではありませんでした。

沖縄で開催された地区大会の前日祭として稲垣実行委員長が行われたローターデーは大成功でした。地区ローターデーとして開催された東分区の IM もとても良かったと思います。今年度やり残したことは各クラブ担当者との勉強会です。ローターロゴや統一イメージの活用の仕方を学び、それらを使って各クラブから社会に発信をする方法もっと議論したかった思いが残ります。



地区委員会からのお知らせ

青少年交換委員会からのお知らせ(青少年交換プログラム及び派遣予定学生選考試験中止)

新型コロナウイルスの世界的感染拡大は、終息への道半ばの状況にあることは皆様ご存知の通りです。このような状況の中、交換学生の安全を最優先し検討しました結果、2020-2021 年度青少年交換プログラム及び、57 期派遣予定学生選考試験を中止することいたしました。次年度以降は以下の予定にて進めて参りたいと考えておりますので、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。今後とも、当青少年交換プログラムへのご支援とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

■ 2020-2021 年度青少年交換プログラム中止の理由

新型コロナウイルスの世界的蔓延の状況下、交換学生の安全を最優先に検討したこと。

- ・日本政府の「緊急事態宣言」の延長が発表され、国内の感染の終息時期が不透明なこと。
- ・RIJYEM（国際ローター日本青少年交換多地区合同機構）から示された指針である「外務省から 3 月 25 日に発出された全世界を危険度 2 とするレベルが 5 月 31 日までに危険度 1 に下らない限り青少年交換プログラムを中止する」との決定に鑑みたこと。
- ・既に複数交換国からプログラム中止の通知が届いていること。
- ・ローターの活動も相当部分制約を受けていることにより、ホストクラブやスポンサークラブの準備、ホストファミリーの確保が出来ない状況にあること。

■ 次年度以降の青少年交換プログラムについて

《2019-2020 年度》 57 期派遣学生募集及び選考試験中止

《2020-2021 年度》 青少年交換プログラム中止（派遣来日とも）

57 期派遣予定学生募集及び選考試験実施（2021 年 6 月）

《2021-2022 年度》 56 期派遣予定学生の内、希望者のみで青少年交換プログラム実施

58 期派遣予定学生募集及び選考試験実施（2022 年 6 月）

ローターアクト委員会より地区年次大会 YouTube 配信のお知らせと寄付のお願い (国際ローター第 2580 地区ローターアクトからのメッセージ)

皆様、はいさーい！今年度のローターアクトの地区年次大会は、YouTube にて配信をいたします。今年度は、地区ターゲットを沖縄の方言で「いちゃりばちよーでー」と掲げ、活動して参りました。本大会では、「兄弟のような絆」を結んできたローターアクトたちに、生涯においてかけがえのない時間である「青春」を通して過ごしていただきたく、現在鋭意準備を進めております。新型コロナウイルスの影響にて、通常どおり開催が難しいですが、オンラインだからこそできる地区年次大会を目指しております。世界中、どこにいても参加ができます。ぜひ皆様のご参加をお待ちしております！！

当日の運営に関して、皆様より寄付を募ります。集めた運営費は必要経費以外の金額を新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に寄付をいたします。皆様からのあたたかい寄付を心よりお待ちしております。

【哀悼】謹んで哀悼の意を表します



東京小石川ロータークラブ
 太田 昭 (おおた あきら) 会員
 逝去日 2020 年 4 月 30 日 享年 100
 入会日 1970 年 4 月 創立会員
 (株)太田胃酸 取締役名誉会長
 ポール・ハリス・フェロー
 ベネファクター
 米山功労者マルチプル



東京江北ロータークラブ
 谷中 義雄 (やなか よしお) 会員
 逝去日 2020 年 5 月 4 日 享年 70
 入会日 2006 年 10 月 5 日
 (株)レイカ 会長
 米山功労者マルチプル



東京江戸川ロータークラブ
 須賀 雅文 (すが まさふみ) 会員
 逝去日 2020 年 5 月 19 日 享年 65
 入会日 1996 年 1 月 8 日
 (有)瑞江セレモ 代表取締役
 マルチプル・ポール・ハリス・フェロー
 ベネファクター
 米山功労者マルチプル

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

米山功労者・メジャードナー

10 回 嶋村 文男 (東京東江戸川)

米山功労者・マルチプル

2 回 後藤 順子 (東京)

2 回 浅利隆文 (東京新都心)

米山功労者

佐藤 貢 (東京武蔵村山)

4 月 30 日分まで 敬称略、順不同

会員数報告

2019 年 7 月 1 日クラブ数	71RC
2019 年 7 月 1 日正会員数	2,990 名
(内女性)	202 名
2020 年 4 月末日正会員数	3,003 名
(内女性)	216 名
会員増減数	13 名
入会者数	161 名
退会者数	148 名

※詳細は[地区ウェブサイト「会員数」のページ](#)をご覧ください。

編集者：遠山明良(地区副幹事 東京 RC 所属)